

新年のごあいさつ



松浦市長

友田 吉泰

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年を顧みますと、5月1日、改元によって「令和」という新たな時代が始まりました。

一方、全国各地において、豪雨や台風などによって、多くの尊い生命や財産が失われました。ここに改めて、お亡くなりになられました方々のご冥福と、被災された皆さまの一日も早い復興をお祈り申し上げます。

松浦市においても、8月末、記録的な大雨に見舞われました。中でも、今福町浜ノ脇地区では大規模な地滑りが発生し、今なお張り詰めた状態の中、不慣れた生活を余儀なくされるなど、更なる安全・安心な暮らしの確保が急務となっております。また、不老山山腹でも地滑りで市道が被災し、通行不能な状態が続いております。

このように、自然災害に備えることの重要性を再認識した二年となりました。このほかの出来事では、アジの水揚げ日本一を背景とした「アジフライの聖地宣言」を4月27日に行い、県内外から多くの人が本市を訪れ、交流人口の拡大と知名度の向上へ確かな手応えが感じられます。

6月に入って以降、伊万里湾においては、3年連続で大規模な赤潮が発生し、養殖業者を中心として、被害の拡大

防止に懸命な努力が続けられました。

12月8日には、オーストラリア・マツカイ市との姉妹都市締結30周年を祝し、マツカイ市長をはじめとする訪問団出席のもとで記念式典を開催いたしました。九州電力松浦発電所においては、念願の2号機が完成し、営業運転が12月20日に開始されました。

師走の都大路を駆け抜ける「第70回全国高等学校駅伝競走大会」が12月22日に開催され、松浦高校が2年連続3回目の出場を果たし、懸命に襷を繋ぐ姿は、勇気と大きな感動を与えてくれました。迎えた新しい年は、これまで計画してきた大型事業が完成或いは本格的に始動する年となります。

まず、「松浦魚市場再整備事業」は、本年4月から一部供用を開始するとともに、来年3月末の完成を目指し、鋭意取り組んでまいります。

次に、「(仮称)松浦市市民福祉総合プラザ」は、本年3月末の完成を予定しております。なお、本施設の1階には市民交流スペースを整備いたします。

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)が整備しております「JCHO松浦中央病院(仮称)」は、本年10月末の開院が予定されております。市民福祉総合プラザとあいまって、医療・保健・福祉が連携し機能することを期待しているところでです。

鷹島地区並びに調川地区の皆さま待

望の「鷹島小中学校」及び「調川公民館」は、いよいよ本格的な工事に入ります。

スポーツの祭典、東京2020オリンピックの開催を祝し、本市においても5月9日に聖火リレーを実施することとしております。併せて、北関東ブロックでのインターハイが分散開催されることに伴い、本市では8月19日から3日間、「なぎなた競技」を開催することとしております。

海底遺跡として、初めて国の史跡指定を受けた「鷹島神崎遺跡」を含む鷹島海底遺跡は、調査開始から40年の節目を迎えます。

多くの皆さまにご意見をいただきながら策定中の「第2次松浦市総合計画」は、大詰めを迎えております。今後10年間の施策の在り方を示すもので、市民の皆さまと共に「持続可能な住みよいまちづくり」を進めてまいります。

昨今、地域住民自らが高齢者の健康づくりや生きがいづくりを支える活動を実施されております。このような取り組みの輪がさらに広がり、小学校区単位でのまちづくりに向け、大きな弾みになることを期待しております。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして、健やかで輝かしい年となりますよう心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



松浦市議会議長

椎山 賢治

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、日頃から、市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は「平成」から「令和」へと新たな時代を結ぶ大きな節目の年となりました。本市におきましても、オーストラリア・マツカイ市との姉妹都市締結30周年や鷹島肥前大橋開通10周年を迎えるなど記念すべき一年となりました。また、松浦高校陸上部が2年連続で長崎県高等学校駅伝競走大会を制し、全国大会出場を果たすなど将来を担う子どもたちの活躍が目立った一年でした。

一方、九州北部に停滞した秋雨前線による豪雨では、本市においても記録的な大雨に見舞われ、住民生活に大きな支障を及ぼす被害が発生し、改めて自然災害の怖さを実感した一年でもありました。

近年の人口減少・少子高齢化社会の到来により、国も地方も大きく変革する中で、地方の果たすべき役割や責務がますます重要となっております。本市においても、今後の限らない発展と市民福祉の更なる向上を目指し、今後のまちづくりの基本計画となる「第2次松浦市総合計画」が策定予定であります。

市議会といたしましても、次期総合計画の着実な実現に向けて、市民皆さまと手を携え、郷土松浦の発展と豊かな住みよいまちづくりを目指し、誠心誠意取り組んでまいります。

結びに、本年が、市民皆さま、また、松浦市にとりまして、飛躍する素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。



オーストラリア・マツカイ市長

グレッグ・ウイリアムソン

明けましておめでとうございます。

平成元年にマツカイ市と松浦市は、互いに理解を深め、友情を育むことに同意しました。この姉妹都市関係は、両市民に友情と親善を促し、互いの理解と知識を深めてきました。それから、30年、私達の姉妹都市関係は、全ての目標を達成し、それ以上の成果を得たとと言えるでしょう。

松浦は私達にとって、単なる名前だけの姉妹都市ではありません。私たちの関係は、石炭の繋がりに始まりましたが、30年の時を経て、両市の絆はこれまで以上に強いものとなり、関係は友情、共に過ごした時間と経験、そして若者を通しての文化的発展に基いています。

12月には私を含め24人のマツカイ市民を受け入れて下さっており、ありがとうございます。色々などころを見学し、共に30周年を祝えたことは、大変名譽なことであり、素晴らしい経験でした。

マツカイ市では、現在様々な開発が進んでいます。新しいスポーツ複合施設も開設しました。「マツカイ・アクアティック&レクリエーション・コンプレックス」は、3つのプールと陸上競技場を備えています。水産業にも新しい技術を取り入れ、漁獲高が世界記録に及ぶほどになりました。また、11のコースを持つ、100キロメートルに及ぶ世界基準のマウンテンバイクコースの建設にも着手しています。次回、松浦市民の皆さまがマツカイ市を訪問の際は、これらの事業についてご紹介できることを楽しみにしております。

最後にマツカイ市民を代表して、松浦市民皆さまが、繁栄に満ちた2020年をお過ごしになることを心からお祈り申し上げます。